

長野県治水・利水ダム等検討委員会 郷土沢川部会 公聴会 議事録

開催日時 平成14年11月20日(水)午後6時から午後8時まで

開催場所 豊丘村保健センタ - (下伊那郡豊丘村)

開 会

田中治水・利水検討室長

定刻となりましたので、ただいまから長野県治水・利水ダム等検討委員会郷土沢川部会の公聴会を開催致します。開会に当たりまして、竹内部会長からご挨拶をお願いしたいと思います。

部会長あいさつ

竹内部会長

どうも皆さんご苦労様でございます。当部会、部会長の竹内でございます。会場の皆様におかれましては、大変お忙しいところご都合をつけてお集まりいただきまして大変心から御礼申し上げます。開会に先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。郷土沢川部会は本年4月22日に設置されまして郷土沢川、芦部川流域の総合的な治水・利水対策について公募による特別委員の皆さん、それから吉川村長にもご参加いただきまして、住民参加の元に検討・調査をまいりました。現在既に13回の部会を開催しておりますけれども、現在のところまだ明確な対策案には至っておりません。村民の皆さんの安心や安全を確保するため、将来への治水・利水対策をどのように考えて行くのが一番良いのか、広い視野でのご意見やご提言をお聞かせを頂きたいと思っております。今回の公聴会では部会で検討いたしました治水対策案として、郷土沢ダムと河川改修による治水対策案、それから河川改修のみの治水対策案を提案させていただきました。また、利水につきましては、郷土沢ダムから水道水源を確保する案、虻川の取水を南部簡易水道のみではなく、北部簡易水道と接続する案、及び、新たな井戸から取水し硝酸性、亜硝酸性窒素を除去する施設を併用する案を提案をさせていただきました。詳細につきましては後ほど説明させていただきます。本日は部会委員が全員ちょっと遅れている方も出席する予定になっておりますので、直接皆様からのご意見・ご提言をお聞きし、今後の部会の検討並びにとりまとめるのに役立ててまいりたいと思っております。大変短い応募期間ではございましたけれども公聴会に公述人として17名が応募いただきました。尚今日お一人はどうしても都合つかないという事で欠席となりましたので、16名という事になります。部会では大勢の方々のご意見を頂きたいと考え、全員の方々が公述いただく様な形を取らせていただくことになりました。尚、時間の範囲内で公述を認める場合もあります。公述をしたい方はその他応募した以外に、公述したい方は公述後に挙手によって発言を求めたいというふうに考えております。会場の皆様には十分ご理解を頂きまして、議事進行に関しましてご協力賜りますようお願いを申し上げます。以上簡単ではございますけれども公聴会に先立ちましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

田中治水・利水検討室長

ありがとうございました。公聴会に入る前に対策案について部会長の方からご説明を致しますのでお願いいたします。

治水・利水対策案の説明

竹内部会長

それでは座らせてやらさせていただきますので、よろしくお願いいたします。お手元に前もって色んな資料を含めまして差し上げてある部分がございますが、郷土沢川、芦部川に関する住民の意見をお聞きした治水・利水対策案というA3の紙ですけれどもご覧を頂きたいと思います。これに沿ってご説明を申し上げたいと思います。

経過は省略致します。郷土沢川部会では将来の郷土沢川、芦部川の洪水対策をどのようにするか。また、豊丘村の北部簡易水道の水道水源をどこから取水した方が宜しいのかということについて、いろんな観点から検討して参りました。今までに13回に及ぶ会議を行いましたけれども、お手元の資料のその次ページ目のところに論点の検証案というのがありますけれども、こういうような中身について、今日まで検討して参りました。現在のところ先ほど申し上げましたように残念ながら結論を出すには至っておりません。その中で出される意見について表にまとめてございます。案として今日は何通りかのもの示しているわけでございますけれども、まず、治水対策案としまして郷土沢ダムと河川改修による対策案ということで、治水対策としてダム建設と河川改修を行う案、これは当初のいわゆるダムの計画でございます。これに対する部会の考え方としまして計画規模、治水安全度は30年に1度の割合で起こる程度の洪水に対する計画とする。基本高水流量は基準点で毎秒138m³とする。ダム建設と併せて行う恒久的な河川改修区間は延長1.3kmであるということです。

その主な利点と欠点は、要するにダムの場合の利点と欠点でございますけれども、ダムの洪水調節により下流の治水効果が得られる。洪水時の多量の土砂流出や流木を防ぐことが出来る。観光拠点としてダム貯水池の活用が出来る。デメリットですけど、ダムは環境に負荷を与える。ダム湛水池の地質は風化し易い。こういうことが検討されました。

今後の部会で検討する事項ですけれども、今日、実はこの前の会議で県の財政状況について審議致しました。皆さんご存知のとおり平成16年度に試算上、財政再建団体に転落する可能性があるということで今、県の方で取り組みを行っているわけでございますけれども、率直に言って、県財政の状況は極めて厳しい現況にあるということが今日の部会の中で確認されたところでございます。

続きまして、(2)の河川改修のみによる対策案でございます。これにつきましては、洪水対策として応急的に河川改修のみを行う案ということでございます。現在の護岸を極力活かして家屋等の移転も極力無くすなど、安価で応急的な河川改修とするということでございます。それから計画規模、治水安全度はダムと同じ30年に1度の割合で起こる程度の洪水に対応できる計画とする。基本高水流量は基準点で毎秒138m³とする。これはダムと同じでございます。それから流下能力の不足する区間、延長約1.8kmのうち必要とされた河川改修の延長は約1.5kmとするということでございまして、これはお手元に図面がいつていると思いますけれども、A区間、B区間、C区間というようにそれぞれ改修する箇所を示したものが先に配られていると思い

ますが、これに基づく案ということでございまして、ダムの場合のいわゆる河川改修は恒久的にいわゆる家屋の移転ですとか、或いは本格的に護岸を改修するとかそういうある意味、恒久的なものとして想定してのものが上の河川改修。ここで言っている河川改修というのは、基本高水流量或いは、治水安全度を下げないでやった場合、同じことなんですけれども、出来るだけ応急的な処置として対処する。いわゆる家屋移転もしない、あるいは出来るだけ最低限にやった時に可能かどうかという意味で検証した案でございます。その点を1つご理解頂きたいと思います。

尚、財政上の負担については書いてございませんが、今日の中でですね確認された事項として、既にダムの場合は使っている費用について14億3千万円が工事用道路その他について支出されております。ダム計画そのものは110億円でございます。既に使っているのが110億円から14億3千万円を引いたのが今後必要になる金額でございます。と同時にプラス河川改修案、ダムの場合の河川改修案は17億5千万円、そして下の河川改修のみによる対策案につきましては7億5千万円という数字でございます。そのことを付け加えさせていただきたいと思います。それから主な利点と欠点ですけれども、河川改修のみによる対策案の場合、ダム事業費より安価であるが、最低限の河川改修計画である。洪水時の多量の土砂流出や流木を防ぐ対策が新たに必要になる。これは上流にそういうものを検討する必要があるということでございます。財政条件につきましては先ほど申し上げたとおりでございます。次に水利対策案についてご説明を申し上げたいと思います。まず郷土沢ダムによる水道水源の確保、ダムから1千m³を取水する案ということでございます。これについてはダム計画案でございます。その中の先に対する部会の考え方といたしまして、水質が悪化している一部の井戸水源に変わって1日1千m³取水を必要とする。飲み水として郷土沢川の水を利用することが最適である。郷土沢からの水を飲みたいということの意見が出されております。次に主な利点と欠点でございます。ダムからの取水は自然流下方法であり、ポンプ施設が軽減でき、経済性に優れている、要するに高い位置から自然に流下できるという意味でございます。それから不安定な水質の地下水源の一部転化が計られ安心した水道を供給できる。渇水時において農業用水も含めた安定した取水が出来る。現在の補助・助成制度の中では有効な方法である。村の財政負担が少ないということで8千8百万円の負担金ということでございます。今後検討する課題として、水道施設が必要となるため村の財政負担及び水道料金への低減を検討する必要があるということでございます。なお水道施設に関わるもろもろの経費については以下の南部簡易水道あるいは新たな井戸水による水道水源の確保も含めまして、本日村のほうで試算をいただきました。これについてはまだ正式に検討委員会として財政ワーキンググループにお諮りしてございませんので、今日の時点ではこの場所では正式に申し上げることは出来ませんが、一応試算は始めてると言うことでございます。次に(2)の南部簡易水道の一部を利用する案でございます。虻川からの取水を南部簡易水道のみの使用でなく、北部簡易水道と接続する案ということでございます。この考え方として、水質が悪化している一部の井戸水水源に変わって新たな水源確保が必要である。虻川の取水による緊急予備的な水源の有効利用が図られる。現在申請審査中の水利権が認可されることを前提とした案である。ですから一応村の方で計画している部分もあるわけですけれども、これについてはまだ認可にはなっていないということの経過がございます。続きまして利点と欠点でございますが、南部簡易水道区域へ給水するため、虻川からの取水は既得水利権者の了解を得ているが、北部簡易水道区域への給水については了解が得ら

れていないという水利権問題が発生するというところでございます。次に現在水道実施計画の認可を変更する必要があるということでございます。それから虻川から取水の一部を北部簡易水道へ供給するだけでは量的にまだ不足する恐れがあるということでございます。それから次に今後検討する課題といたしまして、村の財政負担及び水道料金への影響を検証。それから北部簡易水道へ転用する水量の検証。それから県からの支援についてどんなものが具体的にあるかどうかについてまだはっきりしておりませんので、そのことに対する部会としても考え方をまとめなければいけないということがございます。次に(3)による新たな井戸による水道水源を確保する案でございます。新たに井戸から取水をして、硝酸、亜硝酸性窒素を除去する施設を設置、併用する案でございます。水質が悪化している一部の井戸水源に変わって、新たな水道水源確保が必要であるということが考え方でございます。井戸から汲み上げられた水の中に含まれる硝酸性、亜硝酸性窒素を除去する施設が実現可能となった場合の案でございます。この点につきましては今日の部会の中で、全国で行われておりますその施設の処理につきまして、施設の状況あるいは掛かる経費等についても検討をいたしました。全国的には沖縄ですとか九州ですとか、いってみれば水源がどうしても無いところでそうした処置をするところが出てきておりまして、現に平成10年度位から設置をしてきているところがあるということで、そういう技術的なこともメーカーによって開発されてきているという現状でございます。このところを付け加えさせていただきたいと思えます。続きまして利点と欠点でございますが、地下水は豊富な水源量があると予想されると、要するに硝酸性、亜硝酸性窒素の汚染という問題を除きますと、水源としては水はあるのではないかとということでございます。それから現在の土壌内の水質改善は検証段階にあるため、硝酸性、亜硝酸性窒素による汚染量拡大が心配されるという事でございます。それから今後の検討課題としまして、除去施設の実現可能性を検証する必要があるということで、先ほど申し上げたとおりでございます。それから新たな水道施設が必要となるため、村の財政負担及び水道料金に影響、それは先ほどと同じ事でございます。それから新たな井戸の取水量を検証する必要がある、県からの支援を検討する必要があるということでございます。以上が今日まで当部会としていろいろな角度から検討して、今日公聴会に先立ちまして皆さん方にこうした検討経過を踏まえてご意見をいただきたいということで申し上げた中身でございます。以上よろしく願いいたします。

公述に関する留意点

事務局（田中治水・利水検討室長）

どうも有難うございました。それではこれから公聴会の方始めたいと思えますが、議長は竹内部会長をお願いいたしたいと思えます。それでこれから公述いただくわけですが、注意点、留意点を申し上げたいと思えます。まず議長の方で順番に番号を申し上げますので、番号を言われましたら公述される方は真中にありますマイクの前へ来て頂きたいと思えます。それで公述される方はまず最初に住所、氏名を述べていただいてその後意見の方を述べていただくという形をお願いいたします。それで公述時間は一人5分ということでお願いします。4分30秒でベルが一回なります。また5分になりますとベルが2回なりますので、速やかに公述を終えていただきたいと、そんなことをお願いします。いずれにしてもスムーズな進行にご協力をいただきたいと

思います。それから会場で公聴される方々にお願いいたしますが、公述される方は落ち着いた環境の中で公述していただきたいと考えておりますので、進行の妨げにならないようお願いいたします。それでは竹内議長さん、公述の進行の方よろしくお願いいたします。

意見聴取

竹内部会長

それではこれからご意見をお聞かせいただきたいと思います。なお、お手元に公述人一覧表というのがいっていると思いますが、7番の宇佐美様につきましてはどうしてもご都合がつかないということで、欠席されるという連絡がございましたのでよろしくお願いいたします。それではまず1番の福澤様からお願いしたいと思います。

福澤幸雄

私は豊丘村伴野の福澤幸雄であります。地元井水の責任者をやっております。先月開かれた検討委員会の内容が南信州新聞に掲載され、見たが怒りをおぼえました。委員の発言の中に虻川が湧水して小渋川、竜東一貫水路より水を補い、しのいだ事を聞いたことが無いと。小渋川ダムにより竜東一貫水路は昭和54年竣工、その以前は吉川明博委員の地元は井水の末端に位置し、8月ともなればほとんど水が行かない日が多かった訳であります。近所に入野照雄さんという名前の通る人がいて、棒でなく投網を担いで井水の管理を目を光らせてきた経過があります。竜東地区は山が険しく、岩山で雨が降っても多くが表面を流れてしまい、常に湧水、干ばつの常習地帯として先祖の皆さんは苦勞をしてまいりました。幸い将来を見つめた先覚者がおり、国や県の援助により昭和44年に出来た小渋ダムにより、竜東一貫水路が昭和54年竣工以来、干ばつ、水争いの無い豊かな村に様変わりいたしました。参考に本年の8月、一貫水路より放水される水の量は、豊丘村中の放水分水で1日少ないときで3万7千938m³、多い日で5万5千719m³小渋ダムより分水、供給され緑と清流の村として今日にあります。虻川は1日に2千500m³前後であります。改めて険しい山岳の村ほど降った雨を蓄えて利用する、険しい山の地域だからダムが必要である、学者の意見が正しく証明されております。松川町県営片桐ダムは、上水の供給ダムとしてなくてはならない社会資本として位置づけられております。私は200年に一度あるか無いかといわれる36年の災害を体験した者であります。また各地のダムは防災に大きな成果を果たしております。とりわけ利水はその関係する地域の宝として尊いものであります。造られたダムは、後世に健全に引き継がれるよう、用事を勤めて長く使命を果たされる事を念願しております。ダムは必要であることを申し上げ、郷土沢ダムが採用されれば豊丘村の宝として、大きな村民益につながることを申し上げまして私の公述を終わります。有難うございました。

竹内部会長

有難うございました。続きまして2番の方お願いします。

栗沢英三

私は豊丘村小園栗沢英三であります。私たちが生活しておりますこの豊丘地域社会は、先祖から今に至る先輩の働きの恩恵をこうむってもう一度考えます。バブル景気の崩壊でご承知のとおり、悪くなった経済の見通しも良くない今、環境問題も含めてダム問題は村全体の中の一つとして考えたいと思います。郷土沢ダム問題についての私の意見を少し申し上げたいと思います。私は豊丘の南部地域に住んでおりますので、芦部川には直接影響受けてはいませんが、一般の村民として関係があります。そこで貯水ダムということでは、郷土沢ダム地域の地質が悪い、水を貯めるには不相当であると思います。理由は、あの地域の花崗岩が深い所まで風化しておるからです。ダムが出来ても後の水漏れ対策に費用が掛かりそうです。またダムへ流れ込んで堆積する砂が多く、その砂を取り除くためにも費用が掛かります。技術的には、もろくても今の技術ならダムは出来ると思いますけれども、予想もつかない費用が掛かるのではないかと、そんなことを考えます。郷土沢ダムの目的として、村の上水道の水の確保があります。しかしそれはダムでなくても、他に水源があればよいと思います。水源は村全体の問題だから、新しい水源で村全体の水量を確保することを考えていくべきです。新しい水源としては、新しく井戸を掘るとか河川からの取水が考えられます。また現在の地下水源が汚染されていると聞いていますが、汚染については汚染物質を取り除く装置を付けることを提案いたします。簡単ですがこれで終わります。

竹内部会長

有難うございました。3番の方どうぞ。

前沢光昭

私は河野の中部三という所に住む前沢光昭と申します。時間が限られておりますので簡潔に意見を述べたいと思います。私は県の検討委員会も数回、郷土沢部会は第一回からずっと傍聴してきました。郷土沢部会における治水、利水についてはダム無し案を全面的に指示したいと思いません。まず治水についてですが、1/30の治水安全度、問題となる芦部川下流で提案されている基本高水を採用しても十分に流下能力を確保できると思います。下流より200mの基準点、これは丸昌前の地点ですけど、数字的に足りない分は5m³であると思います。137に対して142ですから。河川断面で見ればわずか10数cmの断面になるとは思いますけど、余裕高60cmを考えれば現在でも既に確保されております。しかし河川砂防基準を考えた場合に、法的にはごくわずかな嵩上げで対処できる筈です。わずかこの10数cmの確保のために、堤防の拡張数mとか10数件の住宅移転を持ち出すのはまったくのナンセンスであると思います。現在の堤防を十分に生かし補強するだけで良いと思います。必要なのは、県道の芦部川橋から旧道になります。芦部川橋までの部分の護岸の改修や、河川狭窄部付近の竹林、立倒木対策が必要です。利水についてです。論点は水質、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素について、林の新水源の基準値オーバーで問題となっておりますけど、ダムよりの取水で安全性を確保するとありますが、ダム建設には膨大な建設費と維持費が掛かります。水道計画にある日向山ダムと郷土沢ダムの両方の浄水場の建設を考えれば、水道料への影響は大きいと思います。水質を問題とするなら他にやり方はいくらでもあります。地域の水源として、虻川からの取水を県に申請しており、既に水利権者にも合意を得ております。部会で論議された対策案にもあるように、虻川から千m³取水し南部簡水の水源とし、予備水源

として予定して計画のある伴野水源を林水源へ連結し希釈すれば基準値はクリアできます。当然この場合、新水源も同様の考え方です。また窒素除去装置についても研究を進める必要があります。電気透析法等の施設により、長崎県南有馬町等既にいくつかの自治体で実施しております。費用は当然掛かりますが、ダムより安価です。この南有馬町の場合、平成 10 年度事業で単体で 1 億 4 千 400 万の予算だそうです。水質汚染については対策ばかりでなく、原因の究明が重要であります。農薬や家畜の糞尿とされておりますが、施肥基準などを設け早期に実施することも重要です。財政面からも言いたいと思います。ダム建設は補助が多いからと安易に考えがちです。部会論議でもありましたが、郷土沢のことについては豊丘のことだから外部の人間には意見を言うてほしくないとの、意見も出たようですけども、この補助金というものは国民皆の税金です。お金は出来るだけほしいが、口は出さないでほしいというのではおかしいのではないのでしょうか。以上まとめませんが、私の意見です。

竹内部会長

有難うございました。それでは 4 番の方お願いします。

滝川利秋

私は豊丘村河野に住んでいる滝川利秋です。ダムによらない治水、利水の方策に賛成する立場から意見を述べさせていただきます。郷土沢川は芦部川の一支流です。今年 8 月現地を見ました。この郷土沢川は不思議な溪流です。雨が降っても水嵩が増えません。また日照りになっても、水嵩が減りません。このように流量が一定している溪流はそうざらには無いそうです。それは郷土沢地籍の山が、20～30mの深さで花崗岩が深層風化し、保水力が大きいことからだそうです。そしてそこには広葉樹と針葉樹の美しい混合林が多い、緑のダムを造っていました。まさに緑と清流でした。ダム予定地の集水域面積は 2.1km²、芦部川流域面積は 16 km²ということで、ダムによる治水効果はほとんど無理と思われる。部会の最近の会合の様子からも、利水をどうするかという方向に論点が移っていることからもうなづけます。もちろん本流芦部川に対する、実効ある治水対策は不可欠と思われる。それでは村の水道水源をどうするかということになりますが、部会の会合でもせつかく国の費用で造ってくれるダムを利用すべきとする考えかたと、ダムに頼らない水源確保の試案が検討されていますが、私はいくら国の費用で造ってくれるダムであっても、あの緑と清流の環境への負荷の方が大きく、100 億かけても戻らない自然環境という大きな財産を失ってしまう、取り返しのつかないことになってしまうと思います。川が無い村ではありません。地下水を含め、村は本気で水探しをすべきです。郷土沢見学後、近くの年配の方にその様子をお話すると、今まで郷土沢川という名前もそんな川があることすら知らなかった、誰がいつそこに目をつけたのか、ダムを造ることで借金を子孫の代へ残すことは大きな疑問であるし、ダムによって自然環境を壊すことは良いとは思わない、と語っていました。私はダムに対する住民意識は盛り上がっているとは感じられません。それは賛成も反対も含めてです。町村合併について先日村で行われた両論の講演会のように、このダム問題についても住民を対象にもっと詳しい両者の説明会があればと思いました。こうした手法によってこそ、住民の他力本願の考え方に変化が出、自治意識が高まると思います。昨年中学生の模擬議会で、自然を壊すダムは造らない

で、と純粋な中学生が訴えていました。県内はもちろん、全国各地、世界各地で騒がれ始めましたダム論議で、ようやく私たちはダムに対する正しい知識が芽生え始めてきました。経済が減速した今こそ、我々は生活の足元から価値観を見つめなおす絶好のチャンスととらえるべきです。ダムがほしかった、のではなかったはずです。ほしかったのは安全と水だったはずです。以上で終わります。是非ご参考にしていただきたいと思います。

竹内部会長

有難うございました。続きまして 5 番の方お願いいたします。

福井直人

豊丘村河野に住んでおります福井直人でございます。私は郷土沢ダム建設賛成の立場から意見を申し上げたいと思います。私の住居は芦部川流域の中平でございます。過去の災害等も目の当たりに見てまいった訳でございます。郷土沢ダム建設の賛成の主な理由としまして、利水と治水両方あるわけでございますが、治水面からいましてご承知のように芦部川流域、近年住宅が急増しておりまして、また事業所も集中をしておるわけでございます。また芦部川の河川の流域、広いわけございまして、大雨のときの一気の濁流の増水、この怖さは身にもってしみておるわけございまして、濁流によっての一気の増水によっての被害の心配があるわけございまして、たとえ郷土沢ダムの流域面だけでも、ダムによる流量調整が必要ではないかというふうに考えるわけでございます。また大事な水の問題でございます。利水の問題でございますが、特にダムによる水の利用を最も期待をしておるわけでございます。今さまざま言われておりますが、地下水の汚染はますます多くなると思うわけでございます。特に社会が複雑になり、また工業化された現代、今の水質汚染は窒素性の物質が問題になっておるわけでございますが、あってはならない事ではありますが、万々一重金属類の検出がされた場合には、行政の責任は当然問われてしかるべきだというふうに考えておる訳でございます。したがって地下水による水道行政の見直しは急務ではなかというふうに思うわけでございます。行政として安全な水を供給するというのが第一に基本的な問題でございます。水道水源としまして、是非郷土沢ダムの水を利用させていただきたいというふうに考えるわけでございます。また将来的には水利権の問題、その他いろいろ難しい問題があるかと思うわけでございますが、出来得れば虻川からの取水と郷土沢ダムからの取水、この併用によりまして、地下水利用の水道行政、変更が出来ればというふうに考えておるわけでございます。村の振興計画も 11 月 12 日に、村長さんに答申がされたわけでございます。私も水道行政に関係する産経部会の一員としまして、審議に参加させていただいたわけでございますが、もちろん郷土沢ダムは県が事業主体でありまして、県の意向は尊重するわけでございますが、部会の審議の中でも答申として郷土沢ダム、虻川からの取水という項目がうたわれておるわけでございます。どうかその点ご配慮頂きまして、是非郷土沢ダムが早期に着工できることをご期待申し上げまして、意見の発表を終わりたいと思います。

竹内部会長

有難うございました。続きまして 6 番の方お願いいたします。

唐澤春子

私は豊丘村田村に住む唐澤春子と申します。いろいろ述べさせていただきたいことがありますので、時間の都合上ちょっと早口で意見を述べさせていただきますのでよろしく願いいたします。私はこの豊丘村に生まれ育ったものですが、昨年まで郷土沢という場所すら知りませんでした。昨年村からのアンケート調査がきたとき、林里の井戸の水源が硝酸性窒素の値が上がっているということを聞いておりましたので、ダムから水源を求める手も仕方がないと考えていました。でも田中知事の脱ダム宣言を読んで、緑のダムってどういうことか関心を持ち始めたとき、村の公民館で行った郷土沢の現地見学に参加しました。郷土沢を目の前にしたとき、どうして芦部川の一つの支流であるこの美しい川に、コンクリートの壁のダムを造らなければならないのだろうかと思いました。参加した私の近くにいた方が、こりゃーこんな水量じゃ治水ダムは造れんぞ、このきれいな水を飲むということでないでないとダムは造れんなー、という話が聞こえて私も心の中でこんなきれいな水が飲めたら良いなと思いました。するとまた他の方は、こんな景色の良いとこだけでダムが出来れば観光にもなるぞ、と話していました。本当に中央アルプスの山々が美しく、私の歩いてきた豊丘の山々は心の安らぐものがありました。その後私は何でダムが必要なかもっと知りたいと思い学習会に参加したり、堀越の皆さんが苦勞された郷土沢から水の取り入れ口のある百田近くを歩いて見ました。松川町の片桐ダムも見に行ったりしているうちに、いろんなことが気づき始めました。部会の様子を有線テレビで見たり、村民の中から選ばれた特別委員の皆さんの発言をお聞きしているうちに、三六災害って言うことだけれど、郷土沢川は芦部川の一つの小さな支流で、山の山の奥の方の川の底を流れる水で、どうしてこの川が危険なのかと思えてきました。ある方に郷土沢川の様子をお聞きしましたら、雨が降っても川は荒れるほど水が出ず、晴天が続いても水量が減らないことを知りました。あー、これが知事の言う緑のダムなのではないか、わざわざコンクリートのダムに水を貯めなくても、山々の木々が保ってくれているのではないかと思います。その後ダムの予定地より上流の方へ行ってみると、山にはよく植林されていて、本当に木々の保水力の素晴らしさを実感することが出来ました。片桐ダムへも行ってみましたが、ダムに貯まっている水は見るからに飲む気が起こらず汚れていました。浄水場も大きなもので、この施設で塩素消毒をしていると聞き、硝酸性窒素は危ないと部会でよく論議されていますが、トリハロメタンの問題は部会の皆様はどう考えていらっしゃるのでしょうか。東京の水源地、多摩湖へ行く機会があり見たことがあります。東京の水はまずいとよく言われますが、この美しい自然の郷土沢が、あのようなダムの水になると思うと悲しく、情けなくなってくるばかりです。部会の論議の中で、郷土沢から汲んできてくれたあのきれいな水はおいしかったと発言されていますが、あのきれいに流れている水がそのまま飲めれば良いのですが、ダムに水を貯めると、水質が変わってしまうことも良く考えていただきたいと思います。村を担う子供や若者たちのためにと言われるのなら、もう一度トリハロメタンの問題も硝酸性窒素に匹敵するぐらいに真剣に考えていただきたいと思います。また部会の様子を見るにつけ、ダムしかないの発言が多く、ダムに変わる代替案が出されてもあれは駄目、これは駄目の、その案をどうすれば良いかという建設的で前向きな意見が本当に少ないような気がして非常に残念でなりません。自分の村

を誇りに思い、この村を住んでいて良かったと言える村にするためには、美しい伊那谷に、この谷間にコンクリートの壁を造るのではなく、保水力のある緑の山々を残せないでしょうか。この美しい自然を誇れる豊丘村を、母親として 21 世紀を担う子供、子孫たちに残したいのです。魚の住める海を作るのは豊かな森から流れる清流が必要です。今全国の各地で、漁業者の皆さんが山へ植林をしているのは、このためではないでしょうか。外国ではダム撤去が進んでいますが、環境破壊のダムはもう造らないことを、部会員の皆様勇気をもって全国へ、世界へ向けて自然豊かなこの豊丘村から発信してほしいと思います。

竹内部会長

どうも有り難うございました。続きまして 8 番の方お願いいたします。

武田九衛

河野の堀越の武田九衛であります。堀越の大井組合の責任者をしておる関係上、ダムについての要望をお願いしたいと思います。当初計画が始まったのが確か平成 8 年か 9 年だったと思いますが、それから建設事務所、役場等でたびたびいろいろなご意見を聞かしていただきまして、私どもの大井は、この芦部川とご承知の百田地籍の郷土沢と合流点から引いとるわけであります。湧水期には、四、五十日に渡って水が無いわけで、全部の水を郷土沢と芦部川と全部せいで足りない位の時があるわけであります。そうしたことでこのダムの問題が出たときには、我々の水を村では水道へ持って来たいということでありましたので、それでは承知できんということでも話し合いをしとる中で、それでは立派なダムを造ってそしてしっかり貯めといて持ってくるならば大井についても迷惑が掛からんのではないかと、そして千 m³の水だけは引かしてもらいたいと、こういう話でありました。いろいろ審議の中で我々大井部会でも、たびたびの会合を開いてこれを了解したわけでありました。その後このダムの計画が進むにつれて、こうしたダム部会の方々にいろいろご検討を頂き、その中で最近有線テレビ等見ておりますと、ダムを縮小してはどうかと、その中で聞いておりますと、利水については縮小ということは言わんわけであります。ダムを縮小したらどうかと、予算的にはどうだと、建設事務所の方だと思っておりますがそうした試算もされておるようであります。村内におきましてもいろいろの水の水質が悪いということで、いろいろの論議をされ、各地の水源を検討しておるようでございますけれども、これは基本的にはダムを造るについて郷土沢ダムの水源が非常に小さいので、大きなダムを造ってそれから千 m³の水を分けていただきたいと、こういうことだと思っておりますし、私どももこのことだけはちゃんと基本において、最初の原案の説明のとおり千 m³を持ってくればダムのしっかりしたものを造っていただきたい、こういうことを要望するわけでございます。これは余談になりますけれども、文化 11 年 7 月 2 日、昔の田村村の農家の農民の方々であります。数十人朝夜明けに百田地籍へ、鍬やトンガやそうしたものを持って、百田地籍の堀越大井の堰ぎ込んである水利を破壊にきたと、こういう水騒動があったわけでありました。その時には阿島様の采配によりまして治まったわけでありましたが、非常に尊い水でありまして今のように水路が完成されておりませんし、非常に水漏れ等もありまして苦労をしたわけでありました。そんなことでその法治の一世一部もこれから造反しちゃいかんという、きつい契約をされたわけですが、あったようであります。そんなことも考

えまして私どもも一水も一滴も粗末にするつもりはありませんが、もってくんならばしっかりしたダムを造って、そして住民のために良い水の供給をしていただくということをお願いいたしまして終わりにいたします。

竹内部会長

有難うございました。続きまして9番の方お願いいたします。

市澤英利

私豊丘村河野に住んでおります市澤英利でございます。夏に郷土沢川、それからダム建設サイトを訪れました。そのときの経験それから日頃自然や生活について考えていることから、公聴会の論点になっております、芦部川の洪水対策、それから水道水の利水対策案について私なりの考え方を述べさせていただきます。私たちは物質的にも精神的にも豊かで快適な社会を作りたいと、そういうふうに目指しております。そのためにさまざまな生産活動や精神的な営みを行いながら自然に働きかけてく、そうした中でいろいろな課題や問題が現在生じてきています。ごみ処理のことや水質汚染のことや、大気汚染のことや、野生動物による農作物への被害のことや、と非常に多岐にわたっていると思います。こうした課題とか問題に対して私たちは皆で知恵を出し合っ解決したり、それから対策を講じてきたりしてきております。しかし現状の課題とか問題が、私たちの人間の生活によって生じてしまっているという現実を、私たちはまずきちんと受け止めなくてはいけないんじゃないかなと思います。で、その上にたって今回の問題、論点の解決の方向を探るべきであると、私はそういうふうに考えます。私たちは自然の中の一員であります。自然の営みによって生かされていますし、また生かされてきたということでもあります。その中で文化や文明を構築し、さまざまな発展を遂げてきました。自然界は基盤に大気とか水とか土があります。そこに生産者、消費者、分解者と呼ばれる生物群がそれらを利用して、それぞれが非常に密接な関係を持ち物質循環を行いながら維持され、存続してきています。私たちもその中の一員であるわけです。それは非常にダイナミックで強靱であると共に、どこか一つが崩されれば私たち人間も含む全体が崩れてしまうという繊細さも併せ持っています。ということが最近明らかにされているわけです。だからこそ近年の環境に関することが盛んに取り出されているな、そういうふうに私は思います。さて郷土沢川一帯ですが広葉樹と針葉樹の混合林で、水の保水力も高く年間を通して安定した水が供給されております。食物連鎖の頂点に立つオオタカが営巢しているという事実は、そのオオタカを支える小動物、更にその小動物を支える緑色植物が豊富に存在していることを教えてくれております。自然界の成り立ちの安定した空間となっているわけです。こうした場所に人工物であるダムが建設されれば、安定空間が失われることは明らかです。オオタカの運命もどうなるかということは分かる気がします。それを私たちに当てはめてみたら、どんなふうになるんでしょう。私は課題となっております洪水対策につきましては、ダム建設によって解決を図るのではなく、河川改修、それから流木の流出対策、それから森林整備などを組み合わせた総合的な対策で解決を図るべきだと、そのように考えます。また一方郷土沢川を訪れたとき、その景観の美しさに非常に心が和みました。美しい景観は日本では法律で、名勝にして保護しております。飯田下伊那では天竜峡が国の名勝になっております。こうした場所は人の心を

癒してくれます。郷土沢川が国や県の名勝に指定される可能性は少ないにしましても、豊丘村にとっての名勝指定であっていいと思います。既に建設されてます工事用道路は、村名勝へのそして森林整備への道に利用されることで、我々住民益につながるのではないかなと考えるわけです。水道水につきましては、硝酸、亜硝酸等の問題ですけども、これにつきましては原因をやはり究明する中でそれに対策を講じる必要があると思います。その原因として施肥の過多が大きな要因になっているということが報道されております。その根本原因をしっかりと探ることによって、解決を図っていくことが重要だと思えます。そうでなければ子孫に苦勞を残すことになると思えます。私は、これは長年の生活によって形成されてきた結果であると思えますので、一朝一夕に解決できるとは思いません。そこで短期的、中期的、長期的対策案を作り、専門家等の最新研究成果を取り入れながら地道に改善を図っていくことだと思えます。こうした結果が将来に渡って、豊丘村の水道水の安全、安定供給につながり、より豊かな豊丘村へと移行し、豊丘村の良さ、素晴らしさの一端を広く発信することになると思えます。以上私の考えの一端を述べさせていただきます。終わらせていただきます。

竹内部会長

有難うございました。続きまして 10 番の方お願いいたします。

代田健

私は豊丘村河野に住んでいる代田健と申します。一村民として郷土沢ダムについて調べたことや、教えていただいたことを基にして考えたことをお話したいと思えます。私は最初は郷土沢という名前さえも知りませんでした。これは多くの村民の方も同様ではないかと思えます。しかし村民として、さしあたってアンケートに答えなければならぬと聞いて始めて関心を持ち、調べてみようと思いました。まず最初にしたのは、国土地理院の 1/25,000 または 1/50,000 の地図の上でダムの地点を印をつけて、全体、村の位置や、本流の芦部川との関係などを見ました。長沢川や佐原川も郷土沢と同じような関係で支流になっていることも、そのとき初めて意識いたしました。次に実際の場所へ案内していただきました。ダム建設地の川や谷や山、崖あるいは植物の状態などの様子を見てやっと郷土沢ダムのイメージが具体的に浮かぶようになりました。そこでいろいろと考えやすくなりました。郷土沢ダムの目的は主として二つで、一つは水道水源の確保、もう一つは芦部川の洪水対策であると思えます。その他もあると思えますが、主なものはその二つだと思えます。そこで最初にどのくらいの範囲の土地から雨水が郷土沢に集まってくるのか、自分で調べてみました。地図の上で分水嶺にあたる嶺を記しつけながらつなぐと、すぐに郷土沢へ集まってくる雨水の範囲内が分かりました。この集水区域を作ってみて意外に思ったのが、本当に狭いなあと思いました。こんなに狭いんじゃないかと果たして洪水調整が出来るのかなあと思いました。芦部川全体の集水区域に比べると、おそらく一割にも満たないんじゃないかなと思いました。これは直感であります。後に調べたら 8 対 1 だとか聞きました。更にダムの貯水量を直感的に知るために、高さ 42m のダムというので大体 50m の等高線を引いて見ますと、貯水範囲が分かります。これも意外に狭いなあと、1/50,000 位置図には小渋ダムの貯水範囲が色で出ていますが、それに比べて本当に狭いと思いました。この程度の貯水量ではとても大雨の時には芦部川全体の

洪水対策にはならない、役に立たないと思います。次に使用目的である水道水の確保について考えてみました。確かにダムが完成すれば水道水は充分確保できます。その上建設費はほとんど国庫負担だといえますから、村にとっては大変ありがたいことです。しかし費用については別の視点から考えると、すなわち国の立場に立って考えると公共工事の無駄使いの面があると思います。すなわちこんな大きなダムを造らなくとも、川から取水して、堰堤式の小さなダムで取水して、導水管で導いてきて沈砂池と浄水池へ入れ、更にきれいになった水を貯水タンクへ配水するのがいいのじゃないかとそう思いました。それで水道水の確保は出来るはずだと思います。すなわち小規模のダムで、本当に必要な程度の小規模なダムで直接取り入れ方式が良いのではないかとそう考えます。大きなダムの方式の場合は自然流下方式で配水できるので、揚水ポンプに掛かる電気量も掛かりませんし、確かにプラス面もあります。費用も安いし。しかし沈砂池と浄水池は大きなダムの場合も必要だと思います。反面多くの問題点が予想されます。第一は自然破壊が大規模に行われるということです。もう一つは難工事が非常に予想されて、したがって予算が大幅に超過されるだろうと、あるいは工期が大幅に伸びるだろうというようなことが予想されます。何故かと言いますと第一にダム付近の地質が問題です。地質図によりますと、郷土沢一帯は生田花崗岩で村内でも至る所に露出していて砂利を作っています。非常に風化しやすい岩石であります。実際にダム地点の上の林道に行くと、その林道の崖の様子を見ましたが小さな断層が無数に走っていて大きな断層の境目には、断層によって生まれて柔らかくなっただけの断層破砕帯が数十メートルにわたって地下へ伸びています。これらの岩は水を漏らしますので、漏水がしますので取り除いてダムを造らないと、ダムの崩壊の恐れがあります。どこまで掘れば一体その硬い岩盤に達するのか、調査は果たして出来ているのでしょうか。またダムに実際水を貯め始めたときに、水を吸った山腹の表土が崩れ落ちてきてダムを埋める事が予想されます。上流何百メートルにわたって崩落防止の工事を行うことが出来るのでしょうか。もしそれが出来ないならば数十年をへずしてダムはうづまってしまおうと思います。そうなれば土砂を取り除くための浚渫工事が必要になり新たな費用が必要になります。朝日新聞に国土交通省の調査で、全国のダムの44箇所が既に半分以上埋まっているというような記事が出ておりました。そういうことを考えまして小規模のダムによる取水が一番いいのじゃないかなと思います。

竹内部長

有難うございました。続きまして11番の方お願いします。

平沢茂文

豊丘村田村の平沢茂文でございます。本日は郷土沢川についての検討委員会の対策案について意見を述べたいと思います。まず最初に前々の人たちからも出ておりましたように、郷土沢川の特徴について一言述べたいと思います。郷土沢川は芦部川の上流に位置した面積2.1km²で、芦部川流域総面積の1/8でございます。森林の保全がもっとも進んでおまして、保水量が優れて年間の流量の変化が少なく、自然環境が極めて良好な地域であります。これはもう前の方からも言われておることでございます。こういったところへダムを造るとということは、どういうことかと、そういうことを疑問に感じる訳でございますが、次に検討委員会から出された治水対策案

でございますが、ダム洪水調節により下流の治水効果が得られる、そして洪水時の多量の土砂流出や流木を防ぐことが出来ると書いてあります。私は先に前述べたような理由で、郷土沢は非常に保水力も大きくて、この郷土沢そのものが洪水調節をする機能を持っており、そういうふうを感じるわけございまして、これが下流への治水効果についてはまったく弱いんじゃないかとそういうことを感じますし、また下流への土砂流出や流木を防ぐ事ができるとはどうも考えられません。そういう点で若干意見を述べさせていただきました。次に治水全般について申し上げたいと思いますが、治水対策案では 30 年に 1 回の洪水を想定して、下流から 1.3 kmあるいは 1.5 kmの河川改修を挙げておりますが、これについては早急に実施する必要があると思います。土砂の流出や流木の防止対策につきましては、芦部川水系の上流から下流までの全流域にわたって危険箇所を点検し、速やかに改善する必要があります。また森林の保全につきましては、治水の中で最も基本になる重要な対策であります。流域全体をよく調査して、長期的な計画を立て実現を図ることが重要であろうかと思います。次は利水対策でございますが、村においても水道水源の問題とか、いろいろ関係の皆さんが研究をされておられますので、私は簡単に所見を述べたいと思います。飲み水として郷土沢川の水を利用することが最適であると述べておられるわけでございますが、ダムへ入れて入った水を利用するという点については、アオコなんかが増殖して、質が悪化するのではないかとということで賛成できません。農業用水につきましては、青木ダムを活用したらどうかというような感じをもちますが、その点については部会で充分研究していただきたいと思っております。以上でございます。

竹内部会長

有難うございました。続きまして 12 番の方をお願いします。

林敏和

豊丘村神稲に住んでおります林敏和でございます。今回の公聴人の募集に際して、部会長名で出された資料を読みまして、その中でいろいろ疑問があったりこう考えるべきだというようなことがありますので、それを簡単に基本的な考え方として申し上げます。一つは非常に大事なことです。先ほど部会長の方からお話がありましたように県財政が非常に悪化している。これはまさに長期の見通しで良くならないという状況でございます。例えば平成 14 年度において県の収入は対前年度比税収入でございますが、-16%というような状況でございますし、平成 16 年度ごろにはおそらく赤字が 280 億ぐらい出て、さっき部会長が言われたように非常に事態が大変なことになりそうだというような状況でございますので、県からのダム建設に関するいろんな費用等はおそらく出てこないというふう考えるのが、非常に重要な認識だろうと思っております。つまり県・国からの建設費に関する補助なりいろんなものはおそらく出てないと、これを大前提に考えるべきだというふう考えています。もう一つは今度自治体の話でございますが、11 月 18 日に先ほどのお話がありました朝日新聞に発表がありました、ダムの堆砂率という問題でございます。これも数十年にわたるとほとんど九十何パーセント、44 箇所の大半のダムが土砂で埋まってしまうと、つまり当初の予定の貯水量はほとんど数十年ないし十何年で半分以下になってしまうというような状況でございます。ましてや今の郷土沢の地帯に行ってみますと、先ほどいろ

いる話がありましたように、花崗岩が風化いたしましてこれがまた簡単に下に落ちるといような事でございます、おそらく堆砂率は相当に高くなる、こういう状況でございます。ですからこの二つの大前提からしますと、郷土沢ダムというものはおそらく建設を回避するべきであろうというふうに考えております。しからばどうして治水利水の対策を立てるかということでございますが、私は資料に基づいていろいろ考えました結果、治水の堆砂につきましては基本高水水量等を基本にしまして、むしろ必要ならば河川の改修を行うべきだというふうに考えます。それから利水対策としましては、この 13 実績という表が村の水道計画図に載っておりますが、この数字を基にしましていろいろ考えてみました。それで北部及び南部の簡易水道の需要量、これはつまり現在の供給している水の需要ということでございますから、需要量として南部の 782t/d、それから北部の 1,714t/d、これ合計しまして 2,496t/d というところでございますが、これが需要として相当長くこれからも今後推移するというふうに考えております。あるいは人口が増えるともっと増えるかも知れませんが、一応これを前提に考えます。そこで 22 計画で考えておりますように、確かな理由は私知りませんが南部の第一は廃止と、で問題は林第二水源のこれもいろいろ問題がありそうなのでこれも廃止と、というようなことを考えまして全部それらを前提しまして現在の七つぐらいの水源をそれぞれそのまま維持するというようなことで考えますと、しかも虹川から千 m 3 もの水を供給受けるといようなことを考えますと、この差し引きが供給が非常に多くなりますが、633t/d の供給余裕がありますので、これに基づいていような事を考えるのが妥当だろうというふうに考えております。それから水の処理につきましては、処理技術がありまして、これはもう原子力発電所で当初の一番最初に流す第一次の冷却系の水なんかは純粋に近いほとんど飲める水ですが、こういう処理技術は既に 30 年前から確立をしておりますので、この技術を浄化装置に使うといようなことで、これらのことを考えますと技術は確立しているし、それから水の水量に関しては十分な補給が考えられますので、これをもって部会の方で充分にご検討いただきたいと。以上でございます。

竹内部会長

有難うございました。続きまして 13 番の方お願いします。

松岡克忠

豊丘村河野の松岡克忠と申します。本日公述に決定通知を頂き、郷土沢ダム建設推進の立場で竹内部会長をはじめ委員の方々、県、村の関係の方々、特に遠方からご参加くださった皆様に、今までの検討に対して心からお礼を申し上げ公述に入ります。郷土沢ダムは平成 17 年度本体着工の予定で準備が進められてきました。私自身も過去二回県からの説明を役場でお聞きし、多目的ダムとして治水利水を中心に流域住民に安心と安全をもたらしてくれるものと信じ、関係者の一人としてダム建設に賛同し、ダム建設後の将来の楽しい夢を描いてもおりました。しかし田中知事の脱ダム宣言は、流域住民の半数以上がダム反対の声をあげ、反対運動のあった砥川、浅川ダムと同列に検討の訴状にのせられる事になりました。郷土沢ダムは流域住民のほとんどの人がダムが出来ることに賛同し期待を寄せていて、脱ダム宣言以前に反対の声も、反対運動も無かったダムなのです。脱ダム宣言以降、流域住民外から何人が反対を声高に叫ぶ人がおられますが、

流域住民の多くの人はダムに賛同し、期待を寄せているという事実に変化はありません。特に豊丘村の将来にとって自然流下で水道水を供給できるダム建設は、財政負担の上からも安心安全安価のどの点からも大切なかけがえのない宝物になるのであります。治水利水対策案に対する賛否を申し上げます。1、治水対策案について(1)郷土沢ダムと河川改修による対策案に賛成。(2)河川改修のみによる対策案に反対します。2、利水対策案について(1)郷土沢ダムのダムによる水道水源の確保に賛成し(2)(3)の南部簡易水道水源の一部を利用するという新たな井戸による水道水源を確保するという案に反対いたします。3、論点の検証案について、文字データの羅列から層別分類に変更を希望いたします。最後に部会の皆様をお願いすることとして、1、コンクリートダムからロックフィル式ダムへの設計変更検討を希望します。2、地元業者への直接発注等で、工事費の削減の出来る方法の検討を希望します。3、今回明示が無い利水対策案のダム以外も、村の財政負担を明示すること。郷土沢ダム案の約8,800万円と明示されていても、金額比較がこれでは出来ません。4、流域住民の100年先までに関わる決定ですから、治水利水対策案に対し、各委員がどの案に賛否を表明されたのか流域住民にきちんと公表してください。5、流域住民の多くが望むダム建設と河川改修を行う答申を、是非まとめていただきたくお願いいたします。郷土沢モデルとしてダム建設と河川改修を行う案が豊丘村の将来を見据えた委員各位の多数であると信じ、絶対必要なダム建設一本化答申に取りまとめのお骨折りを重ねてお願いいたします。私の公述を終わります。どうも有り難うございました。

竹内部会長

有難うございました。続きまして14番の方お願いいたします。

久保田美子

豊丘村河野中部の久保田美子です。よろしくお願ひいたします。私もあまり勉強不足であまりよく分からないんですけども、一応ダムに頼らない治水利水対策ということで発表させていただきたいと思ひます。昭和36年の三六災害が豊丘村全地域に大きな災害をもたらしました。豊丘村の河川は天井川が多く、私の上を流れている寺沢川も三六災害の時には川が決壊して、土砂で家が半分埋まってしまう、結局住むことが出来なくて新築したりまた氾濫した田畑の造成で大変な費用が掛かったようです。大雨が降るたびに心配でしたが、その後寺沢川にも堰堤が出来、少し安心しました。しかし堰堤やダムも長い年月の内には砂や砂利などが堆積して、大きな災害が出たときには何の役にも立たないようです。時々ブルドーザーが入って堆積した砂を取っているようですが、お金も掛かるし大変です。豊丘村でも郷土沢ダムを造って治水利水に役立てようと計画しているようですが、私もその件で福祉センターで地質学に詳しい松島先生の勉強会があり参加しました。また郷土沢川ダム建設予定地の現場見学もありましたが、都合悪くて見学には行かなかったのですが、現場の状況はよくわかりませんが松島先生の話されたことに、上流にダムを造っても治水の役目は無く、川幅を広くして河川の整理をして流木が流れても川を堰き止めないよう治水対策が必要で、ダムを造るにはもっと下流に造る方が効果があると話されました。ダムの水を飲料水に使用したらと考案しているようですが、落葉樹の葉などが水の中に入り、ダムの底に蓄積されるとメタンガスが溜まる為、浄水場を造って塩素消毒をしたりしなければな

りません。それによって化学反応を起こして、トリハロメタンという恐れがあるということで、それがとても発癌性がおきる可能性があるとの事で、ダムからの飲料水が即水道水として適しているかということも言えないのでしょうか。浅川ダムも下諏訪ダムもダムに頼らない治水利水対策をと、町長さんと住民の皆さんが力を入れ始めています。豊丘村でもダムに頼らない治水対策と、安全な飲料水を供給できるように検討していただきたいと思います。よろしくお願ひします。

竹内部長

有難うございました。続きまして 15 番の方お願ひいたします。

唐澤啓六

豊丘村田村の唐澤啓六でございます。特別委員の皆さん、本日まで 13 回に及ぶ部会審議大変ご苦勞様でございます。私も全ての部会を傍聴しましたので、部会から示されました治水利水の対策について意見を述べさせていただきます。まず治水対策として、計画規模 1/30 確率及び基本高水流量、中平基準点において毎秒 138m³ を前提として述べます。まず A 区間ではありますが、200m地点における高水流量 142m³ と現行流下能力 137m³ との差はわずか 5m³ であり、この程度の流量カットは流域の森林整備で全く可能であります。次の B 区間については、両岸が農地と原野であるので堤防の嵩上げを行うより、遊水地として下流部の洪水被害を防ぐ役割にすべきであります。また A,B 区間に共通していることは、洪水被害を 100%防ぐということより、被害を最小限に留めるという視点が必要であります。つまり堤防の越水はやむをえないが、甚大な被害となる破堤を防ぐことを重視すべきであります。現状の堤防を強化すること、特に旧道付近の屈曲部の対策が肝要であります。次に利水対策について述べます。部会の対策案には将来の水需要予測について何ら触れられていないのはなぜでしょうか。論議のスタートというべきこの点について述べます。給水量の将来予測の中で、計算の根拠となるいくつかの項目について不適切な設定が目立っており、その結果需要予測が過大となっています。人口予測の方法はコーホート法を採用すべきであります。一人あたり使用料が右肩上がりとなっているが、節水意識の高揚と雨水利用等を図って、使用量を抑えるべきであります。また負荷率については全国平均で 83% であり、70% では低すぎます。つまり水量の不足はよほどの事態が無い限りあり得ないといえます。次に最大の問題となっている水質についてであります。これまでの部会の論議の中で全ての井戸において硝酸性窒素の値が右肩上がりで将来基準値をオーバーするかのとき発言が目立っておりますが、林水源以外では年次変動また季節変動は見られるものの、全ての井戸が基準値オーバーするとの考察は極めて非科学的であります。硝酸性窒素上昇の原因は既に学会では定説となっているように、肥料の地下浸透が最大の要因であり、決して自然現象ではありません。人間が作り出したものであります。ですから容易に他の水源に切り替えるというのみでなく、汚染防止策に積極的に取り組むべきであると考えます。汚染の進んでいる林水源の対策については、いくつかの解決策が可能であります。まず第一は本年 2 月に掘削した浄化センター内の新井戸に切り替えて対応し、この井戸についても汚染が進行した場合は、村で計画している平成 21 年度からの虻川から南部簡水への取水により、余剰となる伴野深井戸水源を現在の林水源の給水地域の水源として活用すればよいと考えます。このことについて部会の論議の中で、虻川の流量不足が生

じて取水停止の事態が想定されるとの発言が出ておりますが、村が県へ申請した文書の中に干害期、冬期いずれにおいても虻川における湧水流量毎秒 0.557m³を下回り、水道用水の取水があっても既得水利権施設への支障は無いと考えるとして、この場合の水利権者の取水量計算の中で現在一滴も虻川の水を使っていない3地区の架空の使用量が積算されており、まさに取水停止の事態は考えられません。村当局はこの矛盾をどう説明するのか、吉川村長は今後の部会論議の中でこの点を明確にすべきであります。最後に環境の視点から意見を述べます。森は海の恋人と言われますが、この言葉の持つ深い意味をしっかりと認識しなければなりません。今全国各地の漁業者、特に養殖業者の皆さんが山奥の山林に植林を進めています。これは海の環境が森林の環境に左右されることを彼らは知っているからです。森と海をつなぐ役割を果たす川の使命もまた大切です。この大切な循環サイクルを断ち切るダムは、可能な限り造るべきではありません。欧米では造られているダムさえ撤去する取り組みがされている今日、ダム無しの治水水対策を進めるべきと考えます。以上で公述を終わります。

竹内部長

有難うございました。続きまして16番の方お願いいたします。

原茂樹

私は豊丘村田村に住んでおります原茂樹というものです。郷土沢ダムに対しては建設反対の方から意見を述べたいと思います。その前に実はこの郷土沢部会公聴会資料というものが豊丘村の各戸に配られてあると思うんですが、これを見ると非常に郷土沢ダムを造るととってもいいことがあるよということが書いてあってそれ以外の案は、否定的なことが書いてあってとってもこれではダメですよというようなふうに書いてあるわけです。確かにダムについて関心のあるここに来て公述したいという方は、多くがダムはやっぱり駄目じゃないかと言っております。なかには肯定的な方もいますが。それでですねこういう資料を各戸に配りますと、はっきり言ってやはり郷土沢ダムを造った方がいいんじゃないかという考えになるのではないのでしょうか。まず、1番はダムの調節により多量の効果が得られると書いてありますが、これはまず過大評価ではないのでしょうか。本当の数字をここに載せるべきじゃないんですか。これらについての否定的な意見、これを書く必要があるのではないのでしょうか。芦部川の中の郷土沢という川は、芦部川の中から見れば本当に15%位の面積しかない。ましてその川を暴れ川でどうしようもないと言うんでしたら治水しなきゃいけないのに、私も実際に9月のはじめ頃ですが行って見ました。隣の芦部川本流がちょろちょろと流れているのに対して、すぐ隣の郷土沢のほうはある程度流量が流れております。そこに実はトンネルを掘りまして郷土沢のほうから芦部川本流に水を流してます。更にそこから堀越の井水に汲んでいるわけです。堀越の方はやはり知っていました。郷土沢という沢は枯れない。ちゃんと知ってます。なぜかやはり郷土沢というのは流域がきれいな森林地帯になっておりますし、いわゆる緑のダムと言うことで雨が降っても増えない、湧水期でもあまり枯れない、そういう良い川だということです。問題になるのは本流の芦部川ではないのでしょうか。実際に私も行って感じて感じたことですが、その次の、洪水時の多量の流木を防ぐということが書いてありますが、芦部川本流の方には既に青木ダムという砂防ダムが入っております。ある程度

それでもいいのではないのでしょうか。それから今度は利水のほうですが、ダムの方の言葉は全て経済性に優れている、安心した水道を供給できる、安定した取水が出来ると良い事でまっています。それに返して2番、3番のほうは全て了解が得られないとか、必要がある、3番で地下水が豊富にあるというのが、予測ですが、あります。これがいいかなというところですが、ほとんど否定的意見であります。これだけを見た人はやはり郷土沢ダムでなくてはいけないというふうになるのではないのでしょうか。そうではなくて、私の方の意見としては硝酸性窒素の量がなぜ増えたのか、水がなぜそんなに汚染されたのか、そしてその対策は何なのか、どうしたら良いのだという水本来のそっちの方を村はなぜ討議しないのかということです。なぜかと言うと豊丘村の水源は、全て井戸水でございます。この供述を提出するにあたって、いただいた資料の中でも、どこの井戸からも硝酸性窒素は検出されております。将来これが上がるということも予想されます。とすればこの井戸水自体のきれいにするというような方向ということも考えていいんじゃないでしょうか。いずれにしてもこの配布していただいた資料、これを見てやはり郷土沢ダムを造りたい人がかなりいるんだということを改めて思いましたが、はっきり言ってこれは過大広告ではないのかということをつくづく感じました。以上から私は郷土沢ダムはやはり造るべきではないと思います。以上です。

竹内部会長

有難うございました。続きまして17番の方お願いします。

唐澤美恵子

私は豊丘村河野北部に住んでおります唐澤美恵子です。夫は去年から畑田井の沈砂池の泥を払う係になり、年に何回か出かけていきます。沈砂池は何箇所もありその内滝川部落入のトンネルの手前にある沈砂池の泥は、1年に1回払うのだそうですが、ものすごく臭くてあれはヘドロだと言っています。トンネルの中は中央が高くなっていて手前で泥が溜まるようになっており、ちょうどダムのようにになっているのだそうです。畑田井は間沢川から水を取り入れ巾60cm位の小さな井水です。それでもこのような状態が起きているのですから、予定されているような大きなダムが出来た場合を考えると、とても不安になります。ダムは一つでも少ない方がいいと思うのです。富山湾に注ぐ川の上流に、溜まった泥を流し出す装置が付いたダムが出来てから、富山湾にはヘドロが溜まるようになったと、テレビで言っていました。泥を流した川では、その泥が石に付いて魚が育たなくなったという富山の大学の先生の話も聞きました。泥が溜まっても大丈夫というダムを造った場合でも予想以上に砂が早く溜まり、それを取り除く費用が莫大だとも聞きます。検討委員会の討論をお聞きしていても、本気で取り組めば安定した水質の水を探すことも治水についても、ダム以外の方法で県の示されたダム無しでの代替案以外の方法でもやり方はあると感じられました。検討委員会での討論をお聞きして思うのですが、この方法では国からの補助が受けられないからというのではなくて、皆が納めた税金を使うのですから、無駄なお金は使わずに出来るだけ多くの仕事出来るような使い方で補助が受けられるようにして欲しいと思うのです。介護や少人数学級等、今やってほしいことはこの村の中のことを考えただけでもいっぱいあるのですから、全体をそういう方向で村でも県でも考えて欲しいと切実

に感じております。硝酸性窒素等の増加の原因も、環境問題として利水の問題を考えていく上では、すぐにも調査を始めていただきたいと心から願っております。以上です。

竹内部会長

有難うございました。以上でそれぞれ応募いただきました、公述された方の意見が終わりました。大変どうも有難うございました。それでは今日お見えになっておられます、今お話いただいた方以外で、意見を述べたい方についてお願いしたいんですが、何人ぐらいいらっしゃるかを挙げていただけませんか。3名さん。それでは休憩を取ろうと思いましたが、3名さんですので続けて順次前の方へ来て頂いてご発言をいただきたいと思います。なお発言するにあたりましては、先ほどと同じような格好で5分以内ということで同じ処置をいたします。同時にお名前と地区名を言っていただきまして、ご発言をお願いしたいと思います。

酒井和美

部会委員の皆様、ご苦労様です。私は松川町の住人の酒井と申します。最初のご案内では、村内しか発言が出来ないということだったんで、あまり用意してないんですけども、一応意見書も出しました。

今、公述人の皆様から意見がいろいろ出まして、かなりダブル所がありますけども、一言申し上げたいことがあります。まずここに部会の資料と出てます芦部川の全体の計算図ですね、この中で郷土沢ダムで19m³のダムカットをすと出ています。それで私脱ダム宣言が出てからダムに関心を持ちまして、私が出来る限り調べた限りですね、日本広しと言えどもダムカット量が19m³、毎秒19m³と言うダムが郷土沢ダム以外に、これから造るダムは知りませんよ、小さいもの造ればいくらかでも出来るんだから、無理に小さいもの造れば出来るかも知れませんが、既存のダムで治水目的としてですね、19m³より小さいダムカット量のダムがあるかどうか、一度部会委員の皆さん調べていただいてですね、もしかするとこれ金メダル取れるんじゃないかと思うんですよ。ダムカットの小ささとしてギネスブックに載るようなダムなんじゃないかと、ちなみに地図の上ではすぐ隣の10km ばかり先に、小渋ダムというダムがあります。このダムのダムカット量は1000m³あります。そういうことで約1%しかないんですね、ダムカット量が。それで私松川町ですので、片桐ダムのダムカット量は94m³あります。つまり郷土沢という小さな川にダムを造るものだから、30年確率の大水のときに毎秒22m³しか水が出ないんですよ。その中の19m³をカットすると。そういうことでたった19m³しかカット出来ない。カットしようが無い。19m³をカットしますと、洪水の危険性がある200m地点、丸昌さんの前ですね、それから中平基準点ということで旧道のある辺りですね、ここに来るとせつかく19m³カットしても16m³位に減ってしまうわけですよ。それでいただいた資料の中で、設計者の皆さん少し詐欺っぽい所があるんじゃないかなと感じた所あるんですがね、まず最初の計画では200mポイントの河川の底辺が9.51って書いてあるんですね。9m51cmとあります。で、そこに127m³流れる。高水が142m³だから越流の危険が高いんだ、ということでありました。私も現場の河川に行きまして、巻尺で計ってみました。そうしましたら1m80cmも大きい、11.30ですね。ようするに1m30cmも河川の底辺が広いんですよ。要するに最初9.51の底辺で127流れるっていうのが、

約 1m80cm、2 割近く伸びるんですからもっとたくさん流れる筈です。それで部会委員の皆さんの中で、河川堤防をもう一度計ったらどうかといったら、計った資料が出てきました。それを見ますと非常に姑息なことをしていると思うんですが、ここの堤防が途中から丸くなっているんですよね。現場見ていただくと分かるんですが、こんな堤防造る業者がいるわけないんでね、堤防というのはきちんともっすぐ底辺まで降りているわけです。こういう図面を作って 9.9 だと、9.51 という数字が 1.8 大きかったことを認めたくないばかりに、このような図面を作っているということに対して、私は非常に怒りを感じております。豊丘村の皆さんが水道水に困っているということについては非常に同情いたします。是非良い飲み水を探していただきたいと思います。それについて私に協力できることがあったらしたいと思います。よろしくお願いします。

竹内部会長

有難うございました。続きましてどうぞ。

今井守雄

私は神稲田村北市場 3 の今井守雄と申します。ダム推進の立場で説明したいと思います。私は現実 2 回災害にあいまして、避難した経験がある関係で推進ということで発言していきたいと思えます。確かに知事の言うように脱ダム宣言をされた訳ですが、確かに良い事だと私は思えます。しかし豊丘の住民として住みよい村になるには、衣食住ということで食と住が豊丘村においては非常に恐れをなしているわけです。井戸水が良くない、小渋川が決壊して私は 2 回災害にあったわけですが、そういう意味においてどうしてもダムは推進していただきたいとこのように思うわけです。それで郷土沢部会の大多数の方が推進派というように聞いております。私もそれで安心しているわけなんです、現実にはどうなるか分からないわけなんです、私が一步譲って脱ダムというような形で知事さんなり県議会の方が代替案を出していただかないと、これはなかなか先が進まないんじゃないかと思えます。そういう点においてそれが叩き台になっていけば結論が早期に計れるんじゃないかと思えます。私は先ほど言いましたように 2 回避難したわけですが、1 回目は小学校低学年の時、2 回目は三六災害、三六災害の時は引越し荷物を対岸の高森の出砂原において、交通量が多いリヤカーや荷車で運搬したり、小型トラックで行き交う関係で死ぬ思いで運搬したわけなんです。それで疲れた中の避難で、前の役場の 2 階で皆疲れて横になっているのに、私の子供は這い這いする時分ですので、うれしくなって興奮してあっち行ったりこっちへ行ったりして、人様に迷惑をかけて私もたまらないので女房と二人で交代で子供をおぶって、外へ出て寝かしたような調子で、やれやれ寝たと思ったらまた夜が明けて、それから一週間看役を務めたと、こういう苦い経験がありますので是非推進を進めていただきたいと、このように思うわけですのでよろしくお願いします。

竹内部会長

有難うございました。続きましてどうぞ。

福沢邦人

豊丘村田村北市場 1 の福沢と申します。よろしく申し上げます。私は郷土沢ダム推進の立場から一言述べさせていただきたいと思っております。私の住んでおります田村の関係につきましては、治水、利水両面から、直接関係のある所でございますし、またダムの計画されております、ダム予定地でございますけれども、大体これは個人所有の土地ですから、95%が田村区の人たちの物でございます。そのような中でいろいろな関係のある田村区の代表として一言述べさせていただきたいと思っておりますけれども、これにつきましてはある程度推進する中で、工事用道路もおかげさまで出来ましたというような状況でございますけれども、その中で脱ダム宣言が出たということで、予定地の潰れ地の方の調印が明日というときに一応キャンセルという形になったわけです。それで先ほど誉めていただきました、非常に緑の豊かな良い所だというようなお話もございましたけれども、これは個人の人たちが努力して植林をしたとかそういう形のところではないと思っております。と言いますのは自然林に近いところですが、これがそのまま放置すれば今の時代ですからおそらく緑豊かなそんな状況には続いていかないというような気もいたします。そんなわけで少し長くなりますけれども、治水利水についていろいろと検討委員会の皆様も検討されておるようでございますけれども、先ほども申しておりました、まず最初に治水のほうでございますけれども、芦部川の下流域 200m というような形のことを強調されておりますけれども、私たちのこの田村地域は大体 600 戸の戸数を抱えておる豊丘でも一番戸数の多いところでございます。今井さんのほうからもお話がありましたとおり、既に何回か決壊したりその後 57 年か 58 年にも、もう少しで決壊しそうになっていると、非常にそんなに水の上下が無くて水位的には安心した川だと言うようなございますけれども、実際にはそういうことが起きているという形と、先ほど松川の方が堤防のことについて言っていますけど、あれは 36 年の災害の時にそれから上に継ぎ足したんですよ。継ぎ足して丸くなっただけのことで、その前はまだ低くてなおかつ 57 年のときはまたそれをのり越えそうになったという部分があるわけですが、治水についてはその辺もあります。利水については、もう一つの方向があると思っておりますけど、利水、今豊丘村で言われている飲料水を中心に考えられておることがこの中で大きく取り上げられておりますけれども、私たち田村の 600 戸近いうちの大体 400 戸の恩恵を良くしておる、田村大井という動脈があるわけです。これは芦部川からとっておるわけですので、そのことによって先ほども堀越の武田さんの方からもお話がありました水争いもしました。河野の中平の皆さんとも水争いがあったという形の中で、そういうことはやはり水が安定された供給があれば、そういうことが無くてきておりますので、利水の面については大井を維持していくための利水ということも検討委員の皆さんよくお考えいただきたいと、そんなことを申し上げましてお願いしたいと思っておりますけれども、そういう利水は飲料水だけでなくそういう利水があるんだと、これによって田村区の大半が今の水利を使って貯水池等の使用をしておるわけですので、そういうようなところをお考えいただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

閉 会

竹内部会長

有難うございました。

それでは私の方から一言御礼を申し上げたいと思います。本当に皆様方お忙しい中からお集まりいただきまして心から御礼を申し上げます。またそれぞれ貴重なご意見をいただき、またこれまでの部会の審議につきましてそれぞれ見守っていただき、また傍聴いただき、そういう中から本当に考えておられました事も率直にご提案をいただきまして、心から御礼を申し上げたいと思います。今日出されました意見について、それぞれ部会に対する具体的な注文もございますし、また議題にのせて、訴状にのせてしっかり検証しろということもございました。今日出されました意見を、また部会の中で率直に反映させまして一日も早くより良い対策案というものが示せるように、私ども部会としても今日それぞれお越しの委員の皆さんと共に頑張ったいというふうに考えております。いよいよこの審議も大詰を迎えておりまして、次回、次々回そしてその次辺りで一定の方向を、報告書という形でまとめなければならないという場面でございます。本来であれば一定の方向を出した上で皆さん方のご意見を伺おうかと思ったわけですが、返って逆に皆さん方から具体的な提言をいただく場面もございまして、今日のこのいくつかの案に対してあるいは違う案に対しての皆さん方の意見で拝見できて良かったかなというふうに考えております。改めまして皆さん方の今日お集まりいただきまして、部会を代表して御礼を申し上げます次第でございます。大変貴重なご意見そして傍聴などもいただきまして改めて御礼を申し上げます。どうも有難うございました。どうぞよろしくお願いいたします。